

ほんとの空が 戻る日まで

— 東日本大震災及び原発事故からの福島への闘い —

2015

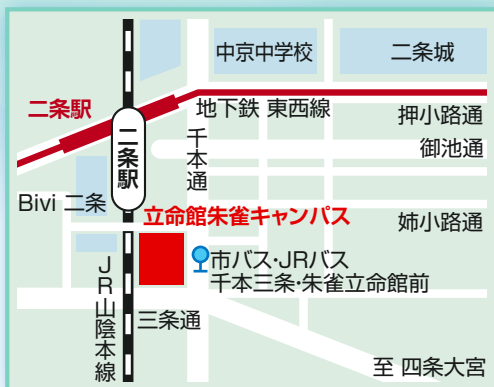
3/8 (日)

12時00分～17時20分

日時

会場

立命館大学 朱雀キャンパスホール
(京都市中京区西ノ京朱雀町1)



- JR・地下鉄東西線「二条駅」下車すぐ
- 京都市バス・JRバス「千本三条・朱雀立命館前」下車
- 阪神電車「大宮駅」徒歩約10分

※駐車場・駐輪場がありませんので、車・バイク・自転車での来場はできません。公共交通機関を利用し、ご来場ください。

■ 観賞自由 開会前 DVD上映 10:00～11:15

OECD東北スクールの集大成
東北復興祭〈環WA〉in PARIS

岩手・宮城・福島の中高校生100人が製作した
被災地とパリで行ったイベントのドキュメンタリー

プログラム

12:00～17:20

- I 部 基調講演 堀 潤 氏
「誰もが発信できる時代
福島のことを丁寧に世界に伝えるために」
- II 部 福島の実況報告
①「福島大学の活動状況」
②「福島県における放射能の現状」
③「食の安全と農業の再生に向けた闘い」
④「こども支援を通して見えてきたこと」
- III 部 パネルディスカッション
「震災・原発事故からの福島への闘い」

参加募集人数 事前申込制 350名 **参加費無料**

※裏面の参加申込書にてお申込み下さい。

参加対象者 一般市民、大学関係者、学生、行政職員、福島県から避難している方 他

主 催：国立大学法人福島大学、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター

共 催：立命館大学、国立大学法人大阪大学

後 援：文部科学省、復興庁、福島県、京都府、京都市、双葉地方町村会、公益社団法人経済同友会 他

(予定)

開催目的

あの日から4年が経過しようとしています。長い月日が経過した今でも福島県では約12万4千人の避難者（うち県外避難者約4万7千人）が原発事故の収束と地元帰還の見通しがたたない中、放射線被ばく、雇用喪失、生活再建、食の安全、子育てへの不安が重くのしかかり、借り上げ住宅、仮設住宅といった厳しい環境の下で生活しています。そして、県民193万7千人が言われなき風評と闘いながら日々生活しています。

震災・原発事故で傷ついた東北は震災直後、関西から心強いメッセージ、そして支援をいただきました。それに感謝し我々の経験そして想いを関西へ返す事により、減災意識を高める事ができればと考えます。そして歴史の繋がりの強い京都で開催し、皆様に今一度福島のことを考え、福島に寄り添っていただく事を目的に開催するものです。

プログラム

受付	11時20分 ～12時00分	12時00分～	うつくしまふくしま未来支援センターの活動紹介
開会	12時10分～	挨拶	福島大学学長 中井 勝己 立命館大学学長 吉田 美喜夫 大阪大学総長 平野 俊夫
I 部	12時25分 ～13時25分	基調講演	「誰もが発信できる時代 福島のことを丁寧に世界に伝えるために」 堀 潤 氏 ジャーナリスト(元NHKアナウンサー)
II 部	13時35分 ～15時05分	福島の実況報告	①「福島大学の活動状況」 中 田 スウラ FUREセンター長 ②「福島県における放射能の現状」 大 瀬 健 嗣 FURE農・環境復興支援部門特任准教授 ③「食の安全と農業の再生に向けた闘い」 小 山 良 太 FURE副センター長、食・農復興支援担当マネージャー ④「こども支援を通して見えてきたこと」 本 多 環 FUREこども・若者支援部門特任教授
III 部	15時20分 ～17時10分	パネルディスカッション「震災・原発事故からの福島の闘い」 [コーディネータ]	開 沼 博 FURE地域復興支援部門特任研究員 [パネリスト]・サトウタツヤ 立命館大学文学部教授 ・久保 壽彦 立命館大学経済学部教授 ・遠藤 勝裕氏 経済同友会震災復興委員、日本学生支援機構理事長 ・高橋 美奈子氏 福島市飯坂温泉松島屋旅館女将 ・佐藤 彰彦 FURE地域復興支援部門特任准教授
閉会	17時15分	挨拶	FUREセンター長 中 田 スウラ

※FURE:うつくしまふくしま未来支援センターの略

ほんとの空が戻る日まで 参加申込書

2月18日(水)までに

FAXまたはe-mailでお申し込みください。



福島大学うつくしまふくしま未来支援センター

FAX:024-504-2865

E-mail:fure@adb.fukushima-u.ac.jp

氏 名	勤務先・学校
(代表者)	
連絡先(電話番号)	

お問合わせ先：福島大学うつくしまふくしま未来支援センター TEL:024-504-2865